

第二問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

① タスマニア島人には「ゴムの木」「垣の木」などに対する名称はあるが「木」にあたることばはない。アフリカのズールー族は「赤いウシ」「白いウシ」に対する名前は「ウシ」ということばにあたることばがない。チェロキー族は洗う物の種類に応じて「洗う」ということばが別々にあるが「洗う」ということばはない。

〔出典〕  
築島謙三  
「ことばの本性」  
〔著者出題歴〕  
・同志社大学  
・立命館大学

② 木、ウシなどのことばが、われわれの社会ではあまりに普通なことばであるから、これらの事実にはわれわれは非常に珍しいこととして気をひかれる。かれらには物事を抽象する能力が欠けている。ショウコダとして、これらのことがもち出されたりしたことがあつて、よく知られた未開社会の言語現象である。  
③ この方は全く誤りであつて、いかに具体的な事物を指すことばであつても、抽象性がないということはない。A 木やウシにあたることばと、個々の種類の木やウシだけを指すことばとの差は小さくない。B 白いウシだけを指すことばはやはり白いウシの全部を総称している。その意味で、やはり一般性の意味を担うことばである。そういうことばを使って話すかれらは、すでに頭の中には抽象の意味世界をもっているのである。そのことはともかく、われわれはこれらの事実によつて、  
甲。というのにはウシ一般を意味することばがなくて、白

15

10

5

早稲  
気づき

なるほど

いウシ、赤いウシに相当することばしかない人のウシ一匹を見る心は、赤い、白いを超えたウシそのものを指すことばをもち、それによつて「馬」に対する「ウシ」なる対象をもつという人がウシ一匹を見る心とは、おのずから異なるはずだからである。はたして白いウシ、赤いウシに共通した「ウシ」なる意味が全く欠如しているのかどうかかわからないけれども、たとえ欠如していないとしても「ウシ」なることばがない社会の人は、それが社会のわれわれとは、ウシを見るワクに異なるものがあるであらう。ウシにおける白、赤の色がもつ意味自体も両社会において異なるであらう。

25

③ このようなわれわれの社会の普通人に、チンキと見える現象は、生き物に対するかれらの区分の意識に異なる面があることの一つの徴標であらう。諸々の事物あるいは事象の区分、分類は、科学の世界では齊一化されている。一般社会では、文化の相違にしたがつて一様でないものがある。殊に未開社会と文明社会との間には、ケンチョな相違を示すものが少なくない。キョクタンな例をいまい一つあげると、オーストラリアの原住民の中で、ワニと自分らとは、ソセンを共有すると考えている部族がある。B、ワニと人間とを同じワクの中にいれて考えることがある。われわれがこれをとんでもないこととするのは、ワニはワニ、人間は人間として全く別の、かかわりのないワクをなすものとして考えているからである。

30

したがつて

## 第二問

問五 傍線部②「ワシントンの河岸に咲きほこる同じ木の花を、アメリカの人がサクラと呼んでも、かれらにあつてはわれわれの場合と格段の差があるはずである」とあるが、それはなぜか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

イ サクラということばは同じでも、異なる気候風土が木や花の姿を違うものにしてしまったから。

問四 空欄(甲)に入れるのに最も適當なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ ことは便宜的なもので、信頼に足るものではないことを教えられる

ロ 個別のウシを指し示す、真の具体的ことはなど存在しえないことを教えられる

ハ より細かな区分を持つことはへと、向かうべきことを教えられる

ニ 思考と習得することはとが、密接な関係にあることを教えられる

ホ 抽象的意味世界のあり方において、文明社会と未開社会の差異がないことを教えられる

問三 傍線部1「この方」の指示内容を、本文中の言葉を用いて二十字以内で記せ。

問一 傍線部 a、e のカタカナの部分 を漢字に直せ。

a

b

c

d

e

問二 空欄 A、C に入れるのに最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。ただし同じものを二度用いてはいけない。

イ たえ      ロ したがって      ハ たえば      ニ なるほど

A

B

C

意味についても、文化がちがえば思わぬちがいがあるものである。C ヨメ、分家、神、先輩などのもつ特殊な意味合いを、のこりなく英語に翻訳することができるであらうか。日本でサクラは古来和歌にうたわれ、酒宴の気分と合体し、花は桜木、と徳の象徴とされてきた。日本人の間でサクラときけば、何がしかのそれにつながる歴史的な風情とでもいえるものを呼びおこされる。ワシントンの河岸に咲きほこる同じ木の花を、アメリカの人がサクラと呼んでも、かれらにあつてはわれわれの場合と格段の差があるはずである。これはわかり易い一例であるが、一定の社会の多数のことばには、多かれ少なかれこのような性質がある。

た  
と  
え  
は



第三問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

① 東京や大阪といった日本の大都市が、世界的に見ても清潔で安全な街であることは誰もが認めている。しかし、そこに生活する人々の顔に、経済大国に見合った豊かさを享受するという、悠揚とした落ち着きは感じられない。また、それら生活関連のユーティリティの充実が、少なくともイギリスでは、すでに一世紀半も前に着手され、今世紀初頭にはほぼ完成していたことを考えれば、日本の近代化が民びとの暮らしを埒外に置いて進められてきたことは明らかだ。いや、ことは国家の問題ばかりでなく、それを許してきたわれわれ個人の問題としても捉え直さなければならないということだろう。

② ヨーロッパの近代的精神を終始一貫して支え、かつタイゲンしてきたのは個としての人間であった。人間が個として自立することによって、合理主義も、またそれにもとづく科学技術の形成も可能となった。そして、そうした個人を根底で支持していたのが、一神教的な色彩のきわめてノウコウな「理性」であった。理性こそが人間を人間たらしめている所以であり、絶対に誤りを犯すことのない無謬性をもつものと考えられたのである。しかし、理性をあまりにも中心に置きすぎたために、かえって窮屈な状況を招来したことも事実である。いわゆる超常現象や心霊現象など科学的に説明できない現象を排除したり、伝統や慣習など非

問六 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ オーストラリアの原住民は、ワニと人間を同じ仲間と考えるほど非理性的であり、文明化は難しい。

ロ タスマニア人は「木」にあたることはこそ持たないが、われわれと同様の「木」という抽象的な概念は持っている。

ハ 一匹の白い牛を見る見方は、「白いウシ」を指すことばを持つズールー族の方が、それを持たないわれわれより正確である。

ニ チェロキー族は洗うことに関して、われわれと異なる抽象の意味世界をもち、現実の把握の仕方も異なっている。

ホ 文化の違いに応じてものの見方は異なるのだから、科学の世界の斉一化した事象の区分はまちがっている。

○ 同じ木を同じことばで呼んでも、歴史や文化の培ったことばの意味合いには大きな違いが生じるから。

ハ サクラということばで呼ばれる植物自体が異なるため、物の見方に異質な枠組みが生じているから。

ニ 同じ木を同じことばで呼び、意味まで統一しても、花見の習慣の統一まではまだ達成されていないから。

ホ サクラということばは同じでも、それが組みこまれている言語体系には文法や発音など大きな違いがあるから。

〔出典〕  
山本雅男  
『イギリスの訓え』

〔著者出題歴〕  
・立教大学  
・法政大学  
・日本女子大学

害 理性

2